

キリストにあつて歩む

(コロサイ2・6～15)

一、キリストにあつて歩みなさい

6節をご覧ください。へこのように、あなたがたは主キリスト・イエスを受けて入れたのですから、キリストにあつて歩みなさい。とあります。この文章から分かりますように、コロサイ人への手紙は、すでに主イエス・キリストを信じた人々に向けて、すなわちコロサイに興された教会に向けて書かれています。もちろん巡回書簡ですから、パピルスに書き写した後に、ラオディキアやヒエラポリスにも届けられました。

ところでコロサイ教会の人たちはどのようにして主イエス・キリストを信じ、受け入れたのでしょうか。使徒パウロを通してではありませんでした。2章1節で「私が、あなたがたやラオディキアの人たちのために、そのほか私と直接顔を合わせたことがない人たちのために、(云々)」と語っているからです。では、だれが伝道したのでしょうか。同労者エパfrasでした。1章7節です。へそういうものとして、あなたがたは私たちの同労のしもべ、愛するエパfrasから福音を学びました。彼は、あなたがたのためにキリストに忠実に仕える者であり」とあります。

福音、すなわちキリストの十字架と

復活の知らせは、だれが語っても良いわけです。ただし、福音に混ぜ物がなされずにまっすぐに語られるならです。その、福音の性質について、次のように語られています。1章6節です。へこの福音は、あなたがたが神の恵みを聞いて本当に理解したとき以来、世界中で起こっているように、あなたがたの間でも実を結び成長しています。と。福音がまっすぐに説かれ、まっすぐに聞かれて理解されまると、その人(或人々)の間で、神の力が湧き起こります。ですから、主イエス・キリストを受け入れた人は、まっすぐに聞き続けてください。

へキリストにあつて歩みなさいの元のことばは「キリストの中で歩みなさい」です。「キリストの中で」とは、どういうことでしょうか。自分の思いよりも、キリストの十字架と復活によって表された善き知らせの中で歩むことです。平たく言つたら、「私はこう思うけれども、イエスさまだったらどう思われるだろうか。どのように行動されるだろうか」と思いながら生きて行くことです。

二、捕らわれの身にならないために

8節をご覧ください。へあの空しいだましごとの哲学によって、だれかの捕らわれの身にならないように、注意しなさい。それは人間の言い伝えによるもの、この世のもろもろの霊によるも

のであり、キリストによるものではないりません。とあります。主イエス・キリストを受け入れ、洗礼を受け、教会に繋がったとしても、そういう人たちが狙う存在は、昔も今もありません。コロサイの教会を誘惑したへ空しいだましごとの哲学とは、何だったのでしょうか。ギリシア文化の影響を受けた人々——「ヘレニズム」ということばが使われますが、コロサイの人々もそうでした——、宇宙は五つの要素で構成されていると考えていました。五つとは、第一に「地を構成する元素」、第二に「水」、第三に「空気」、第四に「火」、第五に「エーテル」でした。その五つの要素のバランスが悪くなると、自然界に災害や飢饉が起こると考えていました。へプライ人の世界観とギリシア人とは、かなり異なりますね。ですが、当時のギリシア文化の影響を受けた地域では、それが最先端の考え方でした。そういう受け止め方から様々な迷信的なものも生まれました。パウロはそれらを指して、へ空しいだましごとの哲学へ人間の言い伝えによるものへこの世のもろもろの霊によるもの」と呼びました。それらは、キリストの福音から出たものではない、キリストの福音とは相容れないものである、と語ったわけです。

では、キリストの福音は何と語っているのでしょうか。9節です。へキリス

トのうちにこそ、神の満ち満ちた性質が形をとって宿っています。と。ここで私共が抑えておくべきことがあります。それは、キリストの福音は人がつくった教えではなく、神がご自身を明らかにされたもの、すなわち覆われていた覆いを取りのけて啓示されたものであることです。こればかりは、信じるしかありません。なお、ここで語られているへキリストへは、すべての人の罪の身代わりに十字架で死なれ、陰府に下り、三日目に死人のうちよりよみがえらされたキリスト、の意味です。

三、十字架と復活の福音に生きる

では、聖書に書かれている十字架と復活の福音とは何なのでしょうか。12節です。へバプテスマにおいて、あなたがたはキリストとともに葬られ、また、キリストとともによみがえらされたのです。キリストを死者の中からよみがえらせた神の力を信じたからです。へがそうです。バプテスマとは、洗礼式のことです。キリストの死と復活にあずかるとは、洗礼のことです。洗礼は一回ですが、聖霊の働きによって、十字架と復活の福音に生きる私たちの思いは、常に新しくされます。

聖歌724番に「今は主キリスト われにありて生く われは早(す)でに死ねり」とありますが、これが十字架と復活の福音に生きる私共の姿です。